

2-1 リハビリテーションにおける達成動機の評価

性別、年齢による得点差、因子構造の検討

○佐野伸之¹⁾²⁾、京極真³⁾

1) 吉備国際大学大学院保健科学研究科 2) 株式会社アール・ケア 3) 吉備国際大学保健医療福祉学部

【背景】クライアントの目標達成に向けた支援では本人の自主性や活動の継続が必要となり、目標をやり遂げようという達成動機の強さがクライアントの行動やリハビリテーションの成否に関与すると考える。現在、リハビリテーションでの達成動機を評価するために2因子10項目のリハビリテーションに関する達成動機尺度（SAMR）が開発されている。

【目的】本研究の目的は、SAMRの各項目、下位尺度得点、尺度総得点、因子構造についての男女差と年齢差を比較・検討することであった。

【方法】リハビリテーションを受ける193名（男性88名、女性105名、58歳未満94名、58歳以上99名）を対象とし、SAMRを実施した。SAMRの各項目、下位尺度得点、尺度総得点はt検定を行った。因子構造は、男女と年齢群それぞれの探索的因子分析、確認的因子分析を行った。

【結果】SAMRの各項目、下位尺度得点、尺度総得点は男女に有意な得点差はなかったが、58歳以上群の5項目と下位尺度得点、尺度総得点は58歳未満群よりも有意に高かった。因子構造は男女、年齢群全てに斜交モデルの適合度が良かった。男性と58歳以上群のモデル適合度は概ね基準を満たす値であった。

【結論】リハビリテーションでの達成動機は高年齢群に達成動機が強くなる傾向が示され、年齢差によって達成動機の強さが異なるということを加味して達成動機を評価する必要があると考えられる。